

教室関係

§ 昭和46年度の地理学科開講科目

・地理学概論	4前	松井	地域概念の地理学的知識のまとめ。
・地理学概論	3・4後	浅井	地理学史の系統的解説と現代地理学の位置づけ。
・地理学概説	1・2前	木内	地理学の本質及び方法について説明。
・日本地誌Ⅰ	2・3前	正井	日本の人文地理学的地域問題に関する考察。
・日本地誌Ⅰ	2・3後	式	日本の自然・地理的性格・自然地理的地域区分・各地域の地方地誌に関する解説。
・日本地誌Ⅱ	3前	内藤	主に東北日本を中心にした日本の経済地誌。
・経済地理学Ⅰ	3	松井	日本及び世界の農業経済地理。
・経済地理学Ⅱ	3前	内藤	工業地域形成の論理の解明。
・植物地理学	2・3前	松井	自然地域の構成要素としての植生。
・地理学特講Ⅰ	3前	松井	那須野盆地地誌。
・地理学特講Ⅱ	3前	竹内	文化地理学の方法論の学説史的展望と文化地理学の基本的な問題の考察。
・気候学Ⅰ	1	浅井	気候理論と気候誌。
・気候学Ⅱ	3前	吉野	小気候の実例と山地・森林・都市・海岸・湖岸の気候の論述。
・外国地誌Ⅰ	2	浅井	ヨーロッパの自然・社会・歴史の系統的説明と地域区分。
・外国地誌Ⅱ	3・4	正井	アングロアメリカとラテンアメリカに関する地誌学的考察。
・自然地理学実験	2・3後	浅海	土壌の理化学性に関する室内分析実験、野外における土壌と地形との観察実習。
・地質学	2	浅海	岩石・鉱物・地層・地史に関する基礎的解釈。
・地形学	1・2	式	地形輪廻・地形分析・侵食地形・堆積地形・構造地形・

			地形発達史に関する理論と実例。
• 地図学講義演習	2	式	地図投影法，地形図の作成過程，地形図を利用する判読 ・計測・作図等に関する系統的解説及び演習。
• 写真地理学	2・3後	式	空中写真と写真測量の基礎知識，空中写真の地理学的判 読方法及び判読例の解説。
• 地理調査法Ⅰ	2・3後	内藤	統計資料の整理，地図化の理論と応用
• 地理調査法Ⅱ	3前	岡崎	野外調査の方法，文献及び図上作業等による方法の概説。
• 都市地理学	3後	正井	日本及び外国の都市に関する諸問題の考察。
• 政治地理学	3・4前	別技	政治地理学の意義，境界論，世界各地域における国際問 題の政治地理的研究。
• 自然地理学実験	2・3前	浅井	気候学に関する実験・観測・整理・記載。
• 地理学演習Ⅰ	3	松井・正井	人文地理学の諸問題を，外国論文を通じて考察。
• 地理学演習Ⅱ	3	浅井・浅海	自然地理学に関する内外の諸文献，調査例などの講読， 紹介。
• 地理学演習Ⅲ	3	式・内藤	地誌学的な内外の論文等の講読と紹介。文献による地誌 のまとめと発表方法。
• 地理学演習Ⅳ	4	全員	卒業論文作成に関する指導と中間発表。
• 地理学	1前	正井	世界の諸地域の地域論的説明。特に自然環境の利用形態， 文化圏，都市化等。
• 地理学	1後	内藤	都市化・工業化に伴う地域問題に対する地理学からの接 近。
• 地学（地質・鉱物）	1前	浅海	地殻表面の諸現象に関する概括的解説，最近の地学上の トピックスの紹介と概説。
• 教科教育法（地理）	3前	大和田	地図の話。地理教育を中心とした社会科教育のあり方と 問題点。

§ 地理学巡検

松井先生	10月	那須野	3年
浅井先生	7月	富士山周辺	1年
浅海先生	10月	諏訪湖・伊那地方	2年
式先生	9月	山陰	2・3年
正井先生	3月	未定	2年
内藤先生	3月	未定	3年

§ 卒業論文

本年度の卒業論文は、1月17日、提出された。

○ 題目は下記の通りである。

- 赤 沢 由紀子 松阪市の都市地理学的考察。
- 石 田 真知子 諏訪市域の自然と土地利用 — 特に霧ヶ峰高原における土地利用形態の特殊性について —
- 上 田 園 子 群馬県中之条盆地の地理学的考察 — 特に地形及び土地利用について —
- 内 田 美枝子 深雪地飯山市の地理学的考察。
- 大 柿 恵 子 茅ヶ岳南麓における地理学的考察
- 川 島 美 保 岩槻市の地理学的考察
- 多 久 美代子 出雲平野の地理的基盤と地域性に関する考察
- 恒 良 恵 子 多摩市の都市化と多摩ニュータウン建設に伴う諸問題
- 広 瀬 由紀子 三浦半島南半部の地理学的考察
- 古 田 幸 子 横浜市における都市的地域構造の変化
- 三田村 由 美 伊郡谷中部・駒ヶ根市における地理学的考察
- 宮 島 悦 子 地下鉄東西線沿線の地理学的考察
- 若 林 佳 子 富山市と高岡市の比較研究
- 渡 辺 むつみ 長野県御牧ヶ原、八重原台地の地理学的考察 — とくに両台地の比較と地域性について —
- 青 木 久美子 山口県新南陽市の工業化

§ 大学院

46年3月に、坂口陽子さん、中間英美子さんが修士の称号を受けた。本年度の入学生は、本学出身の玉城恵子さん、早稲田大学出身の星合克代さんの2名である。

開講科目は下記の通り。

- 地誌学特論Ⅰ（地形誌研究） 式 地形分類，土地分類，地形地域区分等，地形誌に関する方法論，表現法と内外の研究例の紹介と検討。
- 地誌学特論Ⅲ（地理学の基本問題） 木内 都市化とそれに伴う環境の変化に関する文献の講読。
- 地誌学特論Ⅳ（人口地理学） 岸本 人口地理学研究の最近の動向，研究内容，研究方法について。
- 地誌学演習Ⅰ（自然環境要素の研究） 式 気候変化の自然環境に及ぼす影響に関する最近の文献の講読・研究。
- 地誌学野外調査（地誌調査の方法） 式 調査資料の蒐集・分析・総合の方法検討。野外調査の実施。
- 人文地理学特論Ⅰ（人文地理学の基礎的問題） 松井 人文地理学の基礎的諸問題に関する講読。
- 人文地理学特論Ⅳ（都市環境論） 正井 地域環境に関する諸問題。特に日本とアメリカとインドの都市環境について。
- 人文地理学特論Ⅴ（文化地理学） 別技 文化地理学の諸問題，特に宗教及び民族文化を中心として講述。
- 人文地理学演習Ⅰ（人文地理学の基礎的問題） 松井 人文地理学の基礎的諸問題に関する演習。
- 人文地理学演習Ⅱ（アメリカ地理学） 正井 人文地理学に関する基礎的諸問題。特にアメリカ地理学の発達と傾向。
- 人文地理学野外調査 正井 東京とその近郊における都市的・農村的・レクリエーション的土地利用の現地研究。
- 自然地理学特論Ⅰ（気候学界の2テーマ） 浅井 赤外放射温度計観測の理論と実際。生態学の気候学的側面。

- 自然地理学特論Ⅲ（土壤地理学の一考察） 浅海 日本および環太平洋地域における地形面と土壤型との対応関係。
- 自然地理学特論Ⅳ 佐藤 地形学を中心にした自然地理学的諸問題について。
- 自然地理学特論Ⅴ 吉野 大スケールの気候現象を最近の総観気候学の立場から説明。
- 自然地理学演習Ⅰ 浅井 内外の原論文の講読。
- 自然地理学演習Ⅱ 浅海 内外の文献紹介，批判。
- 自然地理学野外調査 浅海 地形・地質・土壤に関する野外調査の方法。

修士論文題目（予定）

- 安西久子：多摩丘陵における土地利用の変化
- 石渡千珠：熱帯東風ジェットの分布とその経年変化，ならびにそれらとアフリカにおける降水現象との関係
- 本沢みどり：台地地域の侵食谷の形成と谷底土壌との関係
— 下総台地南東部を例として —

§ 教官の学内役職

- 松井先生 地理学科主任・図書選定委員
- 浅井先生 1年生補導委員・評議員（9月まで）・施設計画委員・臨海実験所運営委員・館山土地利用計画委員
- 浅海先生 4年生補導委員・建築委員長・ラジオアイソトープ実験室準備委員
- 式先生 3年生補導委員・人文科学紀要編集委員長・臨海実験所運営委員・館山土地利用計画委員・臨時学生会館運営委員長（9月まで）。
- 正井先生 2年生補導委員・一般教育委員
- 内藤先生 学寮委員

§ 教務補佐員の配置

- 福山恭子（旧姓熊谷）（本学昭42卒） 人文地理学講座及び自然地理学講座
- 金子晶子（本学昭35卒） 人文地理学講座
- 玉城恵子（本学昭43卒） //
- 安西久子（本学昭45卒） //

瀬尾 由 紀 (本学昭 4 5 卒) 自然地理学講座及び図書整理
二 瓶 直 子 (本学修士昭 4 4 卒) 自然地理学講座
鈴 木 陽 子 (旧姓林原) (本学修士昭 4 3 卒) 地誌学講座及び空中写真整理

(瀬尾記)

§ 文教育学部独立校舎の完工

文教育学部の独立校舎が 4 7 年 3 月に完工し、夏休みまでに移転を終える見込となっている。場所は大塚公園や区立教育センターなどのある南側道路に面し、一般教育文系の講義室棟 (3 年前に建てられた 4 階建) とならんで南門と図書館の間に建つ。同時に進行中の図書館増築工事もこの 3 月に終る。

南門から見る文教育学部新棟の間口 (東西の幅) は、西方に張り出しのある 2 階の部分で 5 0 m (右下図参照)、これまでの旧本館の横幅の約半分だが、高さは 8 階建て屋上にある機械室の頂部までが 3 5 m あって、この近辺ではかなりの高層建造物となり、屋上からの展望はすばらしい。南北の奥行は 2 1 m で、南門から向って左側面 (左下図参照) のピロティを通り、玄関ホールを経て各室に入る。

1 階は学部事務室や会議室など管理部関係、2 階は教育学科が全フロアを占め、3 階に学部共通講義室が 6 室できる。学科専用の講義室は設けず、隣接の一般教育棟の講義室も使うことになる。ピロティから直接 3 階にのぼる階段があり、3 階のバルコニーには花壇や街灯が設置される。4 階以上は国文、中文、英文、史学、哲学科とつづき、7 階に地理と仏文科が入る。8 階は体育と独文科。学生数の少ない科が高い方に配置された形になっている (音楽科は従来の独立建物に残るので、この新校舎には入らない)。全階をつうじて建物の中心部にエレベーター (1 1 人のり 2 基)、階段 (2 箇所)、トイレなどが集まり、その周りを廊下がとりまき、最外周に教官研究室・演習室・図書室・学生控室などを配するというコアシステムの建築技法をとり入れた。

(浅海記)

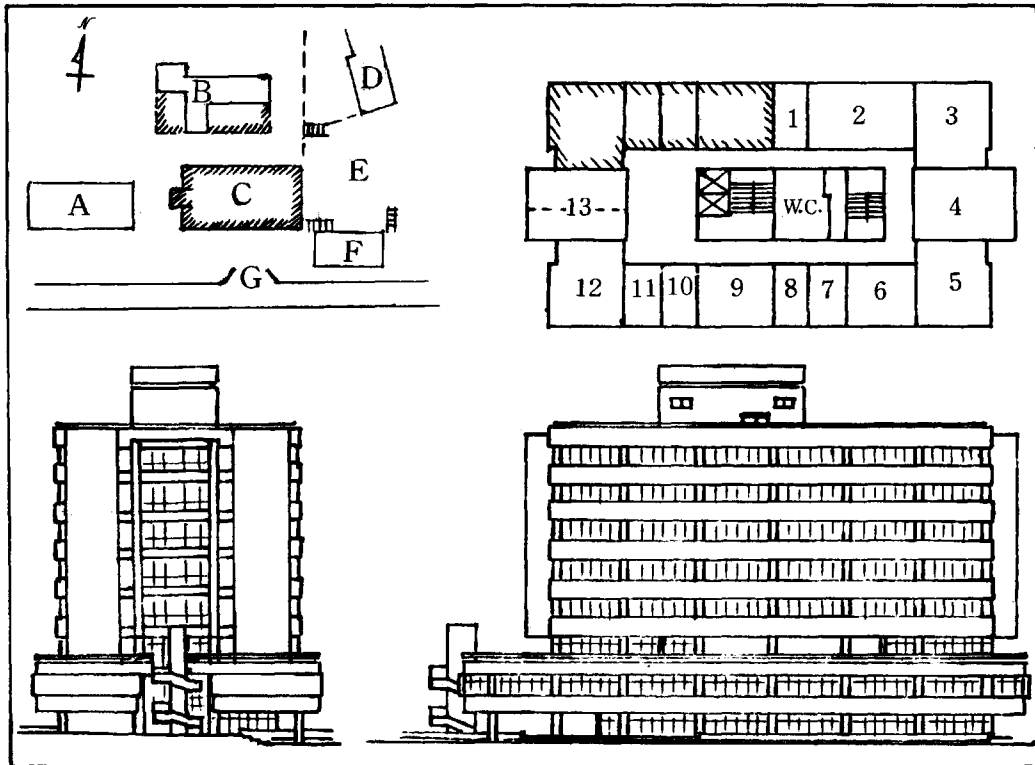
付図の説明

左上図 校舎配置図 A : 一般教育講義棟 B : 図書館 (斜線部分は増築箇所) C : 文教育学部新営棟 D : 合併教室 E : テニスコート F : 事務局 G : 南門

左下図 文教育学部新営棟の西面

右下図 同南面

右上図 7階地理学科の各室配置図(斜線部分は仏文科の領域) 1:機械器具室 2:製図室
 3:事務・複写室 4:図書室 5:土壤実験・研究室 6:写真判読室 7:研究室 8:研究
 室 9:計測・研究室 10:研究室 11:演習室 12:気候実験・研究室 13:院生・学生控
 室



学 会 関 係

日本地理学会の1971年度総会及び春季大会は、4月3日から6日にかけて開かれ、3日と4日は本学にて研究発表などが、5日と6日は巡検が行なわれた。年々大会参加者が増える傾向にあるため、発表会場は講堂も含めて6ヶ所に分かれて行なわれ、懇親会の会場には体育館が当てられた。本学関係発表者は次の通りであった。林原陽子(14回生)・坂口陽子(大学院4回生):秋田市付近の砂丘地形。大会では昨年本学を退官された日本地理学会会長渡辺光先生の「地理学の多様化と一元性に関する問題点」と題する演説が行なわれたほか、山崎・小川両先生誕生百年記念講